

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5865652号

(P5865652)

(45) 発行日 平成28年2月17日 (2016. 2. 17)

(24) 登録日 平成28年1月8日 (2016. 1. 8)

(51) Int. Cl.

F 1

**A 4 7 G 25/00 (2006. 01)**

A 4 7 G 25/00 A

**A 6 1 L 9/12 (2006. 01)**

A 6 1 L 9/12

**A 6 1 L 9/04 (2006. 01)**

A 6 1 L 9/04

**F 2 6 B 9/00 (2006. 01)**

F 2 6 B 9/00 D

請求項の数 5 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2011-216455 (P2011-216455)  
 (22) 出願日 平成23年9月30日 (2011. 9. 30)  
 (65) 公開番号 特開2013-75006 (P2013-75006A)  
 (43) 公開日 平成25年4月25日 (2013. 4. 25)  
 審査請求日 平成26年3月28日 (2014. 3. 28)

(73) 特許権者 000006909  
 株式会社吉野工業所  
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号  
 (74) 代理人 100113169  
 弁理士 今岡 憲  
 (72) 発明者 砂川 貴之  
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会  
 社吉野工業所内  
 審査官 山内 康明

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 靴用クリップ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上端部を連結した一対の基板 (10) のそれぞれ下端部外方に、ケース本体 (30) と蓋体 (40) とを備え、且つ、薬剤を収容した通気孔 (h) 付きの薬剤ケース (20) を一体に設け、左右に並列した靴 (50) の各開口 (51) より各基板 (10) をそれぞれ挿入して、靴 (50) の右足用靴部 (50a) 及び左足用靴部 (50b) の隣接する一対の内側壁部を各基板 (10) で挟持するとともに、右足用靴部 (50a) 内及び左足用靴部 (50b) 内にそれぞれ薬剤ケース (20) を位置させて装着させた靴用クリップにおいて、

各薬剤ケース (20) を基板 (10) の下端から外方斜め上方へ突出させ、基板 (10) と各薬剤ケース (20) とを、これら基板及び薬剤ケースの下端側が尖った形状となるように角度を持って形成したことを特徴とする、靴用クリップ。

【請求項 2】

薬剤ケース (20) は、前後方向を向く第 1 周壁 (31) の一端を開口し、他端を第 1 閉塞壁 (32) で閉塞した縦長の箱型で、各基板 (10) 下端部外面よりそれぞれ外方斜め上方に起立して一体に形成されたケース本体 (30) と、ケース本体 (30) にヒンジ (41) を介して一体に連設するとともに、ケース本体 (30) の一端開口を開閉可能に閉塞し、係脱可能な係止手段によりケース本体 (30) に係止された蓋体 (40) とからなり、ケース本体 (30) の第 1 閉塞壁 (32) 及びケース本体 (30) の一端開口を閉塞する蓋体 (40) の第 2 閉塞壁 (43) にそれぞれ通気孔 (h) を穿設した請求項 1 に

10

20

記載の靴用クリップ。

【請求項 3】

前記係止手段を、ケース本体の一端開口縁のヒンジ（４１）部分を除いて突設した係止壁（３５）と、係止壁（３５）外周に係脱可能に嵌合する蓋体（４０）の第２周壁（４２）とで構成した請求項 2 に記載の靴用クリップ。

【請求項 4】

ケース本体（３０）内に区画壁（３６）で区画された少なくとも 3 つの収容室（Ｒ）を画成し、各収容室（Ｒ）に収容する薬剤を除湿剤、除菌剤、消臭剤のうちから選択的に収容可能に構成した請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項に記載の靴用クリップ。

【請求項 5】

装着する靴（５０）がブーツであり、各基板（１０）はブーツの縦長部分に挿入する全体として側面視垂直線状に形成されている請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の靴用クリップ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は靴用クリップに関する。

【背景技術】

【０００２】

靴の保管時等に、左右を揃えて整理し易い様な目的で、或いはブーツの様に形状維持が比較的難しい場合に形状維持をも兼ねての靴用クリップが提案されている。（例えば、特許文献 1 を参照）

【０００３】

上記特許文献 1 に記載されたクリップは、出掛け先にてブーツを脱いだ際、だらりと下がった目にもよくない等の不都合を解消するために提案され、二股に分かれた本体足部のそれぞれの内側に、自在に長さ調節のできる伸縮棒を取り付け、足部の上部中央に持ち手を設け、足部で左右のブーツの内側壁相互を挟み、伸縮棒を相応に延ばして安定させる如く構成している。

【０００４】

また、ブーツの保形性を得るため、加えてブーツ内の脱臭効果を図るためのブーツスタンドも提案されている。（例えば、特許文献 2 を参照）

【０００５】

特許文献 2 に記載されたブーツスタンドは、板状部材の上下に亘って形成されるとともに、板状部材の幅方向に列状に配設された複数の折曲部を介して板状部材を多角筒形状に折り曲げてブーツの筒脚部内に挿入される本体部と、板状部材に形成され本体部の多角筒形状を保持する本体保持部と、板状部材の下端部に形成され、本体部をブーツの筒脚部内に挿入した際にブーツのつま先方向に開口する通気用切欠部とを備えている。また、袋状の脱臭剤或いは芳香剤を内部底部に一緒に挿入している。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００６】

【特許文献 1】 特開 2 0 1 0 - 2 5 3 2 2 8 号公報

【特許文献 2】 実用新案登録第 3 1 5 5 5 5 6 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００７】

本発明は、ブーツを含む靴の整理が行い易く、一対物として常時揃えておくことができるとともに、ブーツ等の型崩れのし易い部分を備えたものにあっては保形性も備え、しかも、消臭効果、除菌効果、除湿効果等の単数及び複数を同時に発揮でき、また、その使用操作が極めて簡単であり、その構造も極めて簡単な靴用クリップを提案する。

10

20

30

40

50

## 【課題を解決するための手段】

## 【0008】

第1の手段として、以下の通り構成した。即ち、上端部を連結した一对の基板10のそれぞれ下端部外方に、ケース本体30と蓋体40とを備え、且つ、薬剤を収容した通気孔h付きの薬剤ケース20を一体に設け、左右に並列した靴50の各開口51より各基板10をそれぞれ挿入して、靴50の右足用靴部50a及び左足用靴部50bの隣接する一对の内側壁部を各基板10で挟持するとともに、右足用靴部50a内及び左足用靴部50b内にそれぞれ薬剤ケース20を位置させて装着させた靴用クリップにおいて、

各薬剤ケース20を基板10の下端から外方斜め上方へ突出させ、基板10と各薬剤ケース20とを、これら基板及び薬剤ケースの下端側が尖った形状となるように角度を持って形成したことを特徴とする、靴用クリップ。

10

## 【0009】

第2の手段として、以下の通り構成した。即ち、前記第1の手段に於いて、薬剤ケース20は、前後方向を向く第1周壁31の一端を開口し、他端を第1閉塞壁32で閉塞した縦長の箱型で、各基板10下端部外面よりそれぞれ外方斜め上方に起立して一体に形成されたケース本体30と、ケース本体30にヒンジ41を介して一体に連設するとともに、ケース本体30の一端開口を開閉可能に閉塞し、係脱可能な係止手段によりケース本体30に係止された蓋体40とからなり、ケース本体30の第1閉塞壁32及びケース本体30の一端開口を閉塞する蓋体40の第2閉塞壁43にそれぞれ通気孔hを穿設した。

## 【0010】

20

第3の手段として、以下の通り構成した。即ち、前記第2の手段に於いて、前記係止手段を、ケース本体の一端開口縁のヒンジ41部分を除いて突設した係止壁35と、係止壁35外周に係脱可能に嵌合する蓋体40の第2周壁42とで構成した。

## 【0011】

第4の手段として、以下の通り構成した。即ち、前記第1の手段又は第3手段のいずれかの手段に於いて、ケース本体30内に区画壁36で区画された少なくとも3つの収容室Rを画成し、各収容室Rに収容する薬剤を除湿剤、除菌剤、消臭剤のうちから選択的に収容可能に構成した。

## 【0012】

第5の手段として、以下の通り構成した。即ち、前記第1の手段乃至第4の手段のいずれかの手段に於いて、装着する靴50がブーツであり、各基板10はブーツの縦長部分に挿入する全体として側面視垂直線状に形成されている。

30

## 【発明の効果】

## 【0013】

本発明によれば、靴の整理が行い易く、一对物として常時揃えておくことができるとともに、消臭効果、除菌効果、除湿効果等の薬剤効果等を発揮でき、特に通気性の悪いブーツに好適である。従って、靴の整理と靴内のケアとを同時に行なえるという利点がある。また、クリップ本体Aはワンパーツで構成されているため、小パーツ化が図れる。

## 【0014】

薬剤ケース20は、前後方向を向く第1周壁31の一端を開口し、他端を第1閉塞壁32で閉塞した縦長の箱型で、各基板10下端部外面よりそれぞれ外方斜め上方に起立して一体に形成されたケース本体30と、ケース本体30にヒンジ41を介して一体に連設するとともに、ケース本体30の一端開口を開閉可能に閉塞し、係脱可能な係止手段によりケース本体30に係止された蓋体40とからなり、ケース本体30の第1閉塞壁32及びケース本体30の一端開口を閉塞する蓋体40の第2閉塞壁43にそれぞれ通気孔hを穿設した場合には、薬剤ケース20内への薬剤の収容が容易に行える。また、各基板10と各薬剤ケース20とが角度を持って形成されているため、下端部が尖った状態となり、靴50、特に長いブーツへの装着がより容易となる。

40

## 【0015】

前記係止手段を、ケース本体の一端開口縁のヒンジ41部分を除いて突設した係止壁3

50

5と、係止壁35外周に係脱可能に嵌合する蓋体40の第2周壁42とで構成した場合には、係止壁35により蓋体40をケース本体30に対して常時所定位置に嵌合させることができ、しかも、その係脱が極めて容易であるとともに、一旦係止した蓋体40は安定してケース本体30に固定される。

#### 【0016】

ケース本体30内に区画壁36で区画された少なくとも3つの収容室Rを画成し、各収容室Rに収容する薬剤を除湿剤、除菌剤、消臭剤のうちから選択的に収容可能に構成した場合には、一方の薬剤ケース20に収容する薬剤として、除湿効果、除菌効果、消臭効果という3つの作用を一遍に発揮することができ、また、必要に応じて、必要な一つ或いは複数の薬効を選択することもでき、変化に富んだ対応が可能である。

10

#### 【0017】

装着する靴50がブーツであり、各基板10はブーツの縦長部分に挿入する全体として側面視垂直線状に形成されている場合には、同様に靴の整理が行い易く、一対物として常時揃えておくことができるとともに、しかも型崩れのしやすい部分を変形なく維持しておく保形効果を備えている。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0018】

【図1】靴用クリップの斜視図である。(第1実施例)

【図2】靴用クリップの側面図である。(第1実施例)

20

【図3】靴用クリップの使用を説明する説明図である。(第1実施例)

【図4】靴用クリップの斜視図である。(第2実施例)

#### 【発明を実施するための形態】

#### 【0019】

以下、本発明の形態を図面を参照して説明する。

#### 【0020】

図1は靴用クリップ1の第1実施例を示す。尚、以下の説明に於いて、便宜的に図2に於ける上方を上部、下方を下部とし、左方を前部、右方を後部として説明し、以下上下前後はそれに従う。

#### 【0021】

30

クリップ本体Aは合成樹脂製で、上端部を連結し、間隔をあけて縦に並設した一対の基板10を備え、各基板10のそれぞれ下端部外方に一対の薬剤ケース20を一体に設けている。

#### 【0022】

図示例では、上端部を上方に凸の円弧板状をなす正面視形状の頂壁11で連結した一対の平行する右基板10a及び左基板10bを備えている。また、頂壁11から間隔をあけた下方に上方に凸の円弧板状をなす横壁12を架設している。

#### 【0023】

各薬剤ケース20は薬剤を収容して揮散させるもので、ケース本体30と蓋体40とを備え、また、薬剤を揮散させるための通気孔hを備えている。ケース本体30は、前後方向を向く第1周壁31の一端を開口し、他端を第1閉塞壁32で閉塞した縦長の箱型で、内部に薬剤を収容する収容室Rを画成している。また、各基板10下端部外面よりそれぞれ外方斜め上方に起立して一体に形成されている。蓋体40は、ケース本体30にヒンジ41を介して一体に連設するとともに、ケース本体30の一端開口を開閉可能に閉塞し、係脱可能な係止手段によりケース本体30に係止される。

40

#### 【0024】

図示例に於いて、薬剤ケース20は右基板10aに一体に連設した右薬剤ケース20aと、左基板10bに一体に連設した左薬剤ケース20bとを備えている。左右の薬剤ケース20は左右対称に形成されて対称である以外実質的に同様構成となっている。

#### 【0025】

50

図示例に於ける右薬剤ケース 20 a は、前後方向を向く縦長楕円筒状の第 1 周壁 3 1 の前端を開口し、後端を第 1 閉塞壁 3 2 で閉塞した縦長な箱型で、右基板 1 0 a 下端部外面に第 1 周壁 3 1 の内側下部を一体に連結し、外方斜め上方に起立して一体に形成されている。第 1 周壁 3 1 の開口縁には、蓋体 4 0 を開閉可能に連結するヒンジ 4 1 を形成する第 1 ヒンジ形成片 3 4 を一対突設しており、また、ヒンジ 4 1 部分を除いた開口縁部分、即ち、ケース本体 3 0 の前面開口縁の上縁、左側縁、下縁に亘って、蓋体 4 0 の係止手段を構成する係止壁 3 5 を突設している。

#### 【0026】

蓋体 4 0 は、前後方向を向く縦長楕円筒状の第 2 周壁 4 2 の前端縁より第 2 閉塞壁 4 3 を延設している。また、第 2 周壁 4 2 の後端縁より突設した一対の第 2 ヒンジ形成片 4 4 を、ケース本体 3 0 の第 1 ヒンジ形成片 3 4 と回動可能に一体に連結してそれぞれ一対のヒンジ 4 1 を構成している。そして、ケース本体 3 0 に対して開閉可能に設けている。また、第 1 周壁 3 1 の基板 1 0 側外面には指掛け用の突部 4 5 を突設している。そして、第 2 周壁 4 2 を係止壁 3 5 の外周に離脱可能に嵌合させてケース本体 3 0 の前端開口を閉塞している。従って、この係止壁 3 5 と第 2 周壁 4 2 とで蓋体 4 0 をケース本体に係止する係止手段を構成している。尚、係止手段としては本例のものに限らず、例えば、ケース本体 3 0 に突設した係止突起と、該係止突起に係合する蓋体 4 0 に設けたフックとで構成してもよい。

#### 【0027】

左薬剤ケース 20 b は、上記した如く右薬剤ケース 20 a と左右対称に形成されているため、同符号を付して説明を省略する。

#### 【0028】

左右の薬剤ケース 20 は、ケース本体 3 0 の第 1 閉塞壁 3 2 及び蓋体 4 0 の第 2 閉塞壁 4 3 にそれぞれ通気孔 h を穿設している。図示例の場合には、円形透孔形態の通気孔 h を多数穿設しているが、通気孔 h の形状、数等は適宜選択して採用できる。また、通気孔 h は第 1 閉塞壁 3 2 と第 2 閉塞壁 4 3 とのみに設ける場合に限らず、第 1 周壁 3 1、第 2 周壁 4 2 にも設けることも可能である。

#### 【0029】

収容室 R 内に収容する薬剤として、除湿剤、除菌剤、消臭剤等を使用できる。尚、収容する薬剤はこれに限らない。収容された薬剤は、外気と接触させるための通気孔 h を介して外部に揮散される。使用される薬剤として、例えば、固形のもの、或いは、フィルム等で揮散が可能な状態に包装したもの等を使用できるがこれに限らない。

#### 【0030】

この様に構成された靴用クリップ 1 を靴 5 0 に装着した状態を説明する。図 3 に於いて靴 5 0 はブーツであり、靴用クリップ 1 はブーツ用のもので、並列した左右一対の右足用靴部 5 0 a 及び左足用靴部 5 0 b の各開口 5 1 より薬剤ケース 20 及び基板 1 0 をそれぞれ挿入し、右足用靴部 5 0 a 及び左足用靴部 5 0 b の隣接する一対の内側壁部を左基板 1 0 b と右基板 1 0 a とで挟持する。この際、左右の薬剤ケース 20 にそれぞれ収容された薬剤は、それぞれ右足用靴部 5 0 a 及び左足用靴部 5 0 b 内に収納されている。尚、本例に於いて、靴クリップ 1 は正面視で左右を決めているため実際のブーツの左右と反対になっている。当然後ろ向きに装着することもでき、その場合には左右の名称が同じとなる。

#### 【0031】

図 4 は第 2 実施例を示し、本例は図 1 の例に於いて、ケース本体 3 0 内に区画壁 3 6 で区画された少なくとも 3 つの収容室 R を画成し、各収容室 R に収容する薬剤を除湿剤、除菌剤、消臭剤のうちから選択的に収容可能に構成した例を示す。

#### 【0032】

尚、図 4 では左右のケース本体 3 0 内を 2 つの区画壁 3 6 で、それぞれ上から第 1 収容室 R 1、第 2 収容室 R 2、第 3 収容室 R 3 の三つの収容室 R に区画し、各収容室 R にそれぞれ三種類の薬剤を嵌合させる如く構成となっている。即ち、第 1 収容室 R 1 には除湿剤を、第 2 収容室 R 2 には除菌剤を、第 3 収容室 R 3 には消臭剤をそれぞれ収容する如く構

成しているが、これに限られるものではなく、収容室 R の数は必要に応じて選択することができ 2 つでも 4 つ以上でも可能である。

【0033】

また、使用方法としても、必ずしも収容室 R の数だけ嵌合する場合に限らず必要に応じて収容装着することができる。また、その収容薬剤の内容も必要に応じて選択でき、左右同じでなく相違するものを装着しても良く、この場合も必要に応じて適宜選択することができる。その他の構成は図 1 の例と同様であるため、同符号を付して説明を省略する。

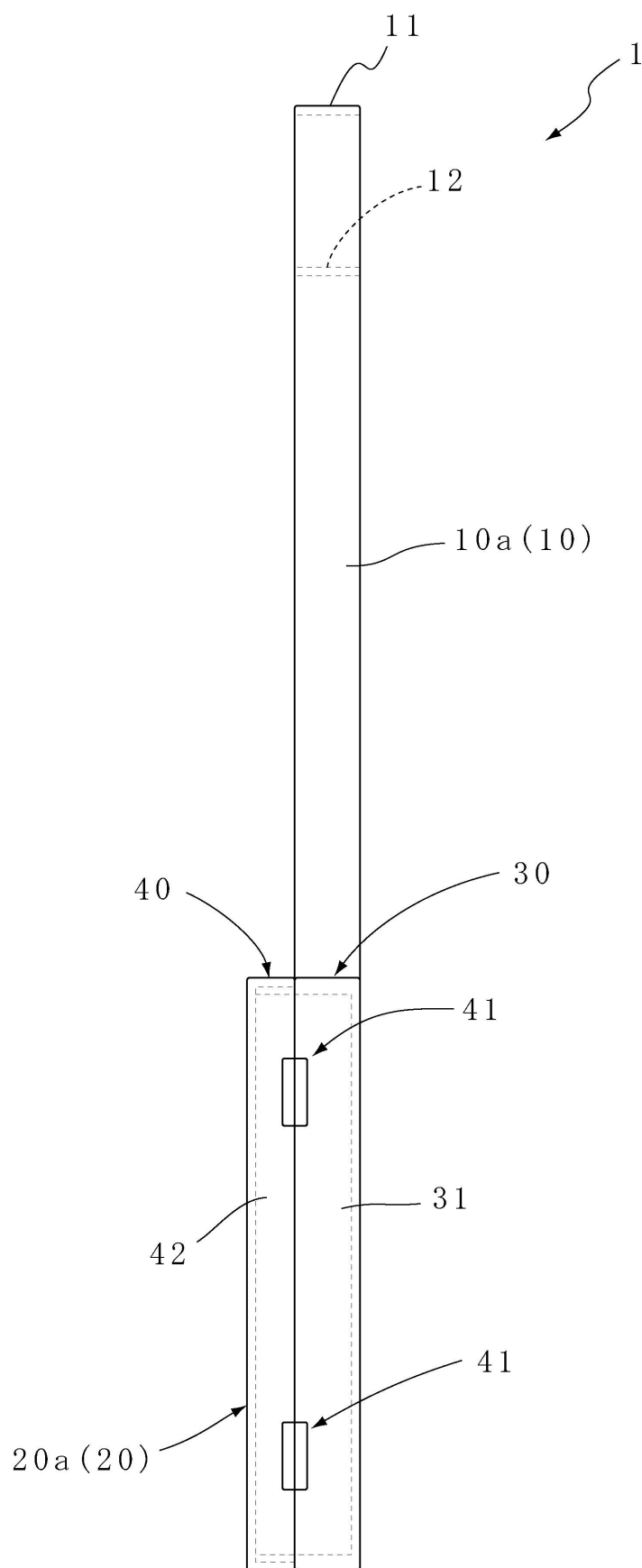
【符号の説明】

【0034】

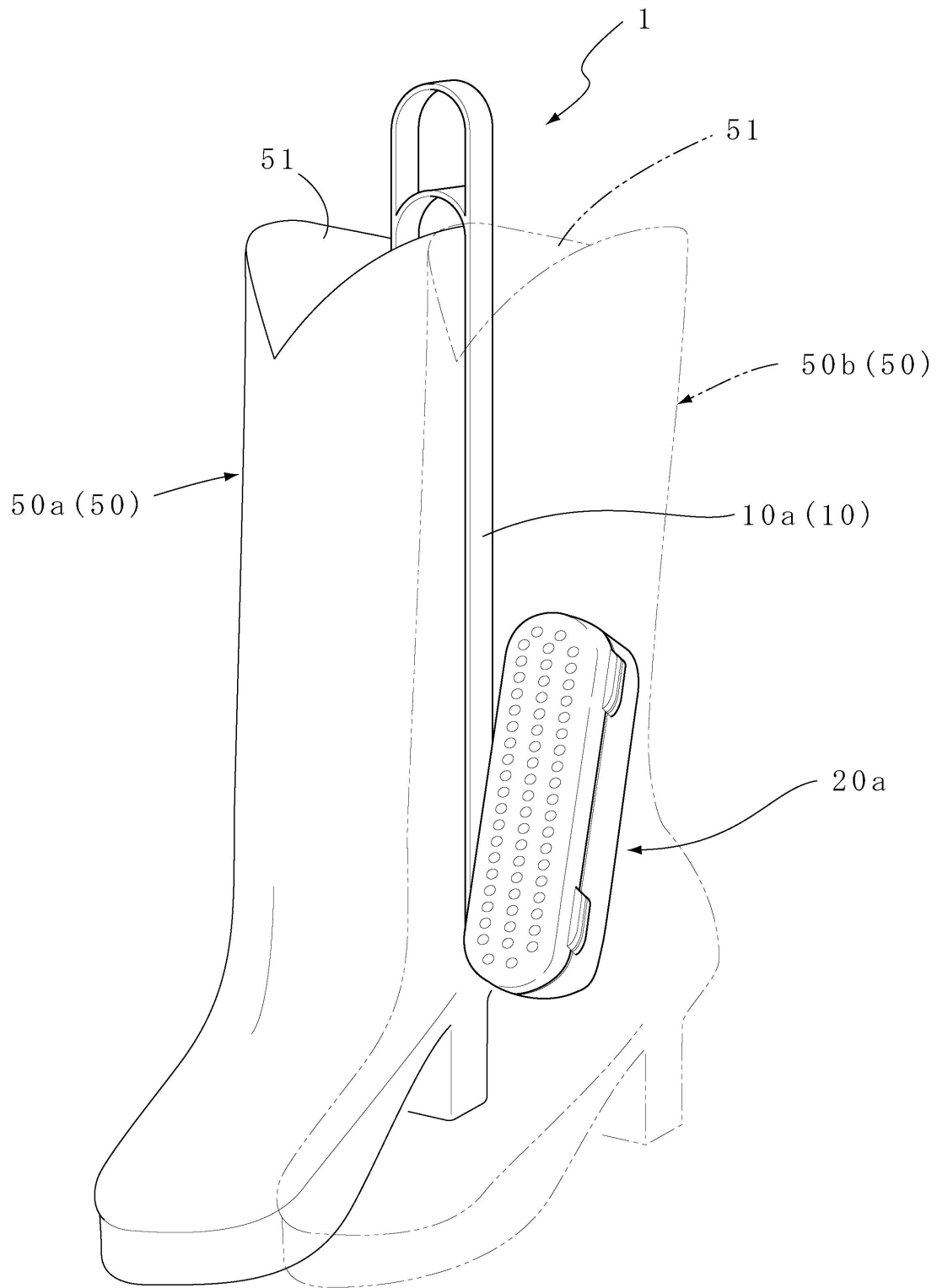
- 1：靴用クリップ 10
- A：クリップ本体
- 10…基板
- 10a…左基板、10b…右基板
- 11…頂壁
- 12…横壁
- 20：薬剤ケース
- 20a…左薬剤ケース、20b…右薬剤ケース
- 30…ケース本体
- 31…第 1 周壁、32…第 1 閉塞壁、34…第 1 ヒンジ形成片、35…係止壁、  
36…区画壁 20
- 40…蓋体
- 41…ヒンジ、42…第 2 周壁、43…第 2 閉塞壁、44…第 2 ヒンジ形成片、  
45…指掛け用の突部
- 50…靴
- 50a…右足用靴部、50b…左足用靴部
- 51…開口
- h…通気孔
- R…収容室
- R1…第 1 収容室、R2…第 2 収容室、R3…第 3 収容室



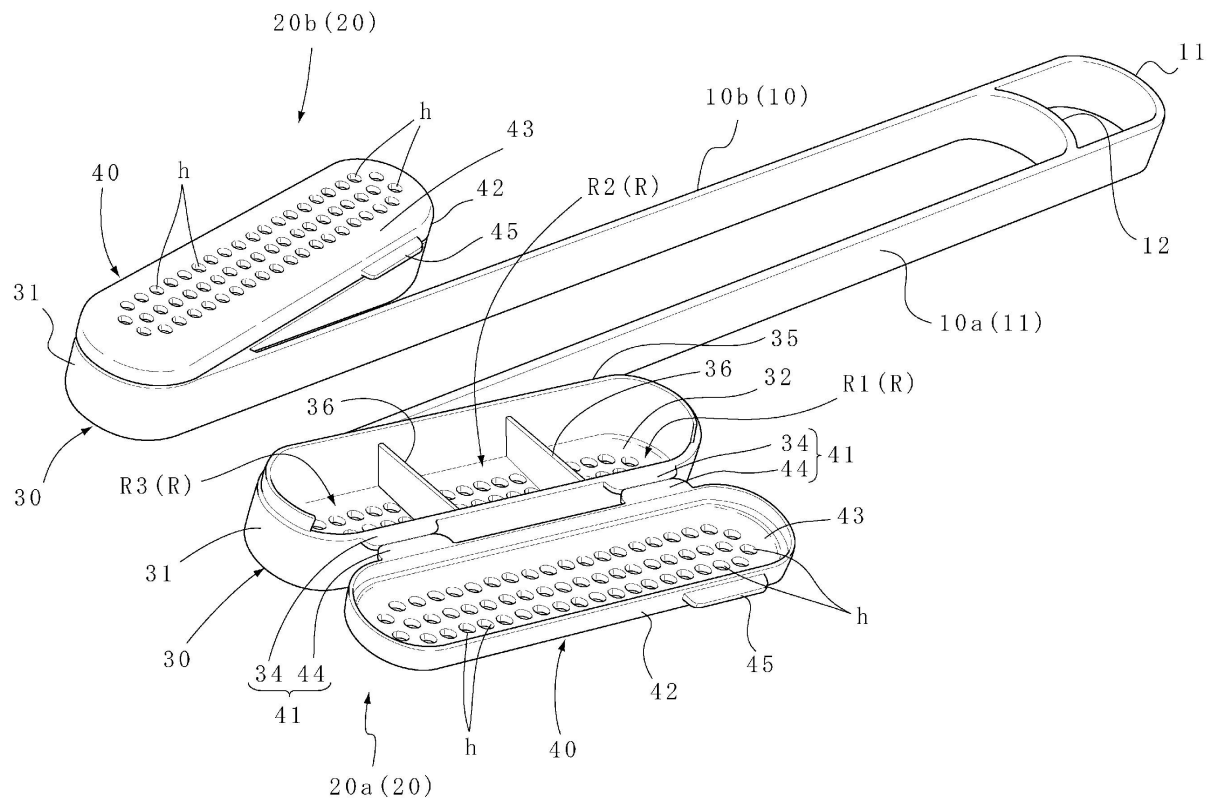
【図 2】



【図 3】



【図 4】



---

フロントページの続き

- (56)参考文献 実開昭55-078043 (JP, U)  
登録実用新案第3034418 (JP, U)  
特開2006-149822 (JP, A)  
特表2009-521375 (JP, A)  
登録実用新案第3147597 (JP, U)  
実開昭63-118925 (JP, U)  
米国特許第04238865 (US, A)  
米国特許第03153564 (US, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
- |      |       |
|------|-------|
| A47G | 25/00 |
| A61L | 9/04  |
| A61L | 9/12  |
| F26B | 9/00  |